

アメリカンフットボールの第46回北海道学生選手権は最終日の3日、北海学園清田グラウンドで、1部Aブロック1位の北海道大と同Bブロック1位の北海学園大が優勝決定戦を行い、北海学園大が21-14で勝利して2年ぶり7回目の優勝を果たした。北海学園大は11月23日に仙台で行われるパインボウルに道代表として出場し、東北学生連盟のトーナメント戦優勝校と対戦する。同ボウルの勝者は、12月20日のホワイトボウル（東京）で関東大学1部リーグ・ビッグ8の優勝校と対戦する。

北海学園大は第2Q、4分にQB小笠原文瑠（2年、札幌・北海高）からWR佐藤玲太（3年、札幌光星高）への66ヤードTDパスで先制。第3Q、5分にはWR佐藤玲太のパス捕球と好走でつかんだ好機にRB阿部龍太郎（4年、室蘭栄高）が3ヤードランでTD。第4Qにも、相手ファンブルをリカバーして得た敵陣8ヤードからの攻撃で、RB阿部が2回連続ダイブしてTDを奪い、リードを広げた。



北海道大は第2Q、9分にQB茨木大輔（2年、兵庫・六甲学院高）からWRウェドロック・ダニエル（4年、千葉・昭和学院秀英高）への20ヤードTDパスで一時同点とした。第4Qにも、残り1分でファンブルリカバーで攻撃権を得ると、QB茨木がWR宮崎大地（1年、兵庫・星陵高）へのTDパスを決め、7点差まで追いつけたがあと一歩及ばなかった。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「攻撃ラインが良かったのでラン主体で攻めた。パスは見せるだけだった。RB阿部はもっと走れた。今季は時間の無い中で基礎練習が中心だったが、4年生のラインが多かったのでチームを作りやすかった」と振り返り、「パインボウルに向けてはもっとパスを仕上げたい」と課題を挙げた。30回、127ヤードを走りラン攻撃の中心となったRB阿部は「攻撃ラインを含め、パワーで北大を圧倒できた。勝因はブロックが押せていたことに尽きる。若いQB、レシーバーもものすごいスピードで成長した」と快勝を喜び、「今週末でグラウンドが使えなくなるが、パインボウルに向け、モチベーションを落とさずにいきたい」と次を見据えた。

【記録】

▽1部優勝決定戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
北海道大（Aブロック）	0	7	0	7	14
北海学園大（Bブロック）	0	7	7	7	21